

# 令和8年度研究プロジェクト計画概要

研究種別	■自主研究 19	公益目的事業 19
主査名	大森宣暁 宇都宮大学教授	
研究テーマ	多様性を考慮した都市と交通のバリアフリーに関する研究～外国人観光客に着目して～	
<p>近年、訪日外国人観光客、特に大型キャリーケースを持ちながら移動する観光客の増加が、観光地や公共交通の混雑の原因となっている。例えば、観光地付近の地下鉄駅の改札や情報案内板、エレベーター付近において、大型キャリーケースを持つ観光客が多いことが、高齢者や障害者、ベビーカー利用者を含めた他の公共交通利用者にとってはバリアとなる状況も生じている。一方、外国人観光客自身も、大都市における複雑な公共交通網と分かりにくい乗り換えや、大型荷物の預け場所等に関する多言語対応を含めた情報案内不足といったバリアが存在する。このことは、観光バリアフリーの視点からも、外国人観光客が急増する自治体において喫緊の課題と認識されている。申請者らは、これまでの研究プロジェクト等において、多様な人々の夜間の外出活動の質向上という視点から、都市と交通の現状と課題について議論を続けてきた。そして、多様な人々の中でこれまであまり着目していなかった訪日外国人観光客にとってのバリアフリー、また訪日外国人観光客急増による我が国の都市と交通が直面するバリアフリーの課題について、昼夜に拘わらず研究を進めることの重要性を認識した。</p> <p>以上の背景から本研究は、SNS や AI、オンライン活動が急速に普及・浸透した現代社会において、多様な人々の生活活動と交通行動との関係について理解を深め、我が国の社会的文化的特性を考慮して全ての人々が安全・安心・快適に昼夜ともに外出活動に参加でき、生活の質を向上させる都市と交通のあり方に関する研究の一環として、急増する訪日外国人観光客に着目し、夜間を含めた観光活動・交通行動の実態およびバリアの要因を明らかにすることを目的とする。ケーススタディとして、東京都台東区と栃木県宇都宮市を取り上げ、両都市における外国人観光客の行動・意識調査を実施し、観光活動の質の向上およびバリアフリー施策の検討を行うことを目指すものであり、研究の方法は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・外国人観光客の活動・交通行動および観光バリアフリーに関する国内外の重要文献のレビュー</li><li>・観光客視点からの国内外諸都市の交通環境、特に夜間の公共交通環境に関する情報収集と整理、メンバーによる議論</li><li>・交通事業者、施設管理者、自治体等へのヒアリング調査</li><li>・鉄道駅など交通結節点における、訪日外国人観光客の荷物および行動についての観測調査</li><li>・訪日外国人観光客の活動・交通行動、特に活動内容・時刻・場所・交通手段選択に関する意思決定プロセスおよびバリア（荷物、情報案内など）の要因を理解するためのインタビューおよびアンケート調査（調査対象都市は台東区、宇都宮市を予定）</li><li>・訪日外国人観光客に関する具体的なバリアフリー施策の整理と提案</li></ul>		